

2022年度 臨床研修案内
専門医研修のご案内



東京大学医科学研究所 附属病院



最先端研究による社会貢献

病院長の挨拶



病院長
四柳 宏
YOTSUYANAGI
HIROSHI

東京大学医科学研究所附属病院の専門医研修案内を手にとって頂き、ありがとうございます。

当院は日本で唯一の“研究所に設置された病院”です。当院に通われている患者さんの多くは“難病”とされる病気をお持ちです。こうした患者さんのために病態の解析・治療薬の開発を行うことが研究所のミッションです。その成果を患者さんにお返しすることを目指して研究所では日夜研究が行われています。

こうした目的を実現するには、病院に来られる一人一人の患者さんを丁寧に診察することが何より大切と私たちは考えています。当院ではそうした姿勢を皆さんに身に付けて頂くように配慮しています。

また、研究所での研究がすぐそばにある当院での研修はこれから専門領域に進まれる方にとって大きな糧となるものと確信しております。

これからの医学・医療を担う皆さんをお待ちしています。



概 要

施設名称

東京大学医科学研究所附属病院

所在地

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

<http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

病床数

122床

各診療科研修案内

p 4	内科
p 5	感染免疫内科
p 6	血液腫瘍内科
p 7	腫瘍・総合内科
p 8-9	アレルギー免疫科
p 10	外科
p 11-12	脳腫瘍外科
p 13	泌尿器科



感染免疫内科
科長
堤 武也
TSUTSUMI
TAKEYA



血液腫瘍内科
科長
南谷 泰仁
NANNYA
YASUHITO



腫瘍・総合内科
科長
朴 成和
BOKU
NARIKAZU



アレルギー免疫科
科長
山本 元久
YAMAOTO
MOTOHISA

東京大学医科学研究所附属病院での内科専門医研修は、感染免疫内科、血液腫瘍内科、アレルギー免疫科、腫瘍・総合内科の4科で行われ、下記基幹病院の連携病院として、それぞれ特色のある研修を行っております。詳細は各診療科の研修案内と、下記HPをご参照ください。

内科臨床研修案内; <https://intimsut.jp/>

【連携基幹施設】

東京大学医学部附属病院・都立駒込病院・都立墨東病院・都立多摩総合医療センター・日本赤十字社医療センター・NTT東日本関東病院・東京都済生会中央病院・地域医療機能推進機構東京山手メディカルセンター・地域医療機能推進機構東京高輪病院・公立学校共済組合関東中央病院・公立昭和病院・東京逋信病院・東京警察病院・関東労災病院・済生会横浜市東部病院・けいゆう病院・諏訪赤十字病院

感染免疫内科



科長
堤 武也
TSUTSUMI
TAKEYA

感染免疫内科はさまざまな感染症の診療を行います。海外渡航後の発熱、性感染症、ウイルス肝炎の診療、HIV感染症の診療、その他感染症全般(新型コロナウイルス感染症を含む)の診療にあたっています。また、渡航外来も当科で診療に当たっております。

当科は、東京大学医科学研究所に併設されている先端医療研究センター、感染症国際研究センターとの密接な連携のもと患者さんに最新かつ最善の治療を行うこと、患者さんと同じ目線に立つことをモットーにしております。

Webサイト

病院感染免疫内科→



研究室→



対象疾患

HIV感染症/AIDS、肝炎、肺炎、蜂窩織炎、インフルエンザ、結核、梅毒、淋菌感染症、クラミジア感染症、感染性胃腸炎、赤痢、腸チフス、マラリア、デング熱、その他の感染症全般、不明熱

研修の特徴

1. 日本感染症学会認定研修施設です。1年間で1回以上の学会発表または英文での症例報告・論文発表を目標とし、感染症学会専門医の受験資格を得ることができるよう指導します。
2. 病棟診療のみではなく、外来診療(初診・定期とも)も担当可能です。
3. HIV感染症の診療・研究に従事可能です。
4. 熱帯病治療薬研究班参加施設であり、また、国立大学病院としては数少ない渡航外来を有しています。熱帯病・渡航外来の診療にも従事可能です。
5. COVID-19専門病棟や特殊感染症外来特別診察室を有しています。整った環境のもと病棟・外来・ICTと多角的にCOVID-19診療に関与し、症例報告・論文発表を行って頂くことが可能です。
6. 多数の臨床試験、治験を実施しており、臨床試験の実際を体験することができます。
7. ICT・ASTにも参加できます(ICD資格の取得をサポートします)。
8. 比較的小規模な病院であり、希望者には科を越えた研修の機会を提供することが可能です。また、当直は内科病棟当直です。
希望する方は、上部内視鏡・下部内視鏡・腹部エコー・心エコーなどの各種検査手技の訓練・習得の定期的な機会を設けます。細菌検査室での研修も可能です。
日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本超音波医学会の専門医研修施設認定を受けており、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、超音波専門医の取得も目指すことが可能です。
9. 外国語での診療を体験する機会もあります。
10. 希望する方は、短期海外研修(要各自応募)等のための休暇を取得することが可能です。
11. 研修後の入局あるいは大学院への希望の有無に関わらず研修ができます。

連絡先： tsutsumi@ims.u-Tokyo.ac.jp



科長
南谷 泰仁
NANNYA
YASUHITO

当院の血液腫瘍内科は日本血液学会研修施設として高度な血液診療を研修することができるのみならず、研究所附施設として研究室の活動にも触れる機会を持つことで、最新のエビデンスを熟知し実行できる医師から、明日のエビデンスを作ることの出来る医師を養成することを目指しています。

東京都内では規模が大きな血液内科とはいえませんが、個々の患者に最高の医療を提供するために努力する指導者がおり、そのための設備がそろっている当施設は、充実した研修をおこなうのに最適な環境であるといえます。随時見学も受け付けていますので、興味のある先生はお気軽に連絡をしてください。

高密度無A菌区域



高密度無菌室



血液内科病棟は、病棟7階に高密度無菌室7床と準無菌室26床を備え、合計33床で運用をしています。高密度無菌室では造血幹細胞移植の急性期治療をおこないます。2020年までに830件の同種移植をおこなっています。

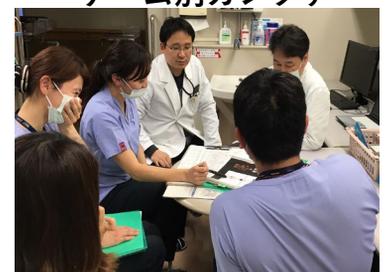
すべての入院症例を全員で議論する「全体カンファ」と、詳細なデータまで確認しながら細かい方針を決定する「チーム別カンファ」をおこない、きめ細やかな指導をおこなっています。臨床論文に多くふれることで、現在の血液学のエビデンスがどのように作られているかを学び、自らエビデンスを作ることに挑戦できます。

研究室の活動にも参加することで、基礎研究に触れる機会を持ち、次のキャリアへの足がかりとする医師が多くなります。

全体カンファ



チーム別カンファ



血液腫瘍内科スタッフ





科長
朴 成和
BOKU
NARIKAZU

腫瘍・総合内科は、これまでの総合診療科を引き継ぎ、2021年7月に新設されました。これまで以上に、固形がんの診療に注力しています。

まずは、腫瘍内科領域の研修についてご説明いたします。本邦では、国民の2人に1人が「がん」に罹患し、3人に1人が「がん」で死亡するなど、「がん」は最も重要な疾患の1つであると認識されています。これは、周術期補助化学療法を含めると、国民の3人に1人以上が一生涯に一度は抗がん剤治療を受けられることを意味しており、抗がん剤治療を専門とする腫瘍内科はニーズの高い領域といえます。研修医の先生方が将来的にどのような分野に進まれても、がん患者と接する機会は多く、腫瘍内科的な考え方や基本的な診療を学ばれることをお勧めいたします。

腫瘍内科として、下記のような研修を準備しています。

- ・エビデンスに基づいた化学療法の実践
- ・チームアプローチによる副作用のマネジメント
- ・高齢者や合併症を有する患者へのエビデンスの応用
- ・外科や総合内科などと協力したmulti-disciplinary approach

また、診療以外にも下記のプログラムも用意しています。

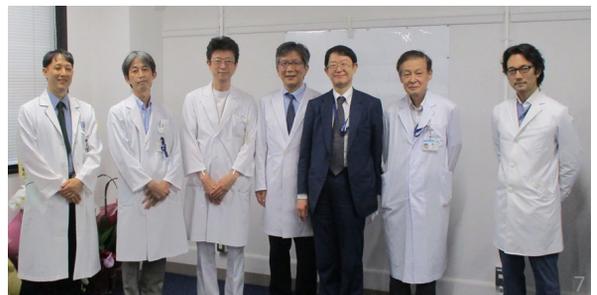
- ・Clinical Questionのを見つけ方やそれを解決するための検討方法
- ・臨床研究、臨床研究の方法論
- ・学位取得や将来的なTranslational Researchの前準備としての研究所見学
- ・学会や臨床研究グループ会議への出席や国内外のリーダーの紹介
- ・論文の読み方、書き方

次に、総合内科領域の研修についてご説明いたします。

総合内科として、消化器、循環器、糖尿病・代謝分野があり、様々な疾患について研修が可能で、希望者は内視鏡検査や心臓超音波検査などの検査を勉強することもできます。

特徴的な診療として、下記の外来をもうけており、他施設では極めてまれな疾患を経験することもできます。

- ・ピロリ菌外来
- ・結合織病(マルファン)外来
- ・筋ジストロフィー心筋症外来



E-mail; nboku@ims.u-Tokyo.ac.jp

URL; <https://gmimsut.jp/>

アレルギー免疫科

アレルギー免疫科では、関節リウマチをはじめとした、膠原病・リウマチ性疾患の診療を附属病院で行うとともに、リウマチ指導医による大学院生、研修医、専攻医の教育を実施し、医科学研究所ならではの病態解明と新規治療法の開発につながる研究を展開しています。特に高齢発症の関節リウマチの病態に対して、どのように治療を行うのが最適か、考えています。また、今世紀に入り、わが国で疾患概念が形成されたIgG4関連疾患に関しても、症例を集積し、病態の解明とAIを活用した個別化医療の確立に向けて取り組んでいます。

当科のホームページを是非ご覧ください。右記がQRコードです。



研修体制

【指導医】



山本 元久 (准教授 1997年 札幌医大卒)

専門：リウマチ・膠原病・IgG4関連疾患

資格：総合内科専門医、リウマチ専門医・指導医、
リウマチ登録医、免疫療法認定医、アレルギー
指導医・専門医



上原 昌晃 (医員 2010年 東京大卒)

専門：リウマチ・膠原病

内科専門医およびサブスペシャリティー領域の専門医を目指して、臨床経験豊富な指導医より適切な指導を受けながら、研修を行なっていきます。外来・入院診療、当直業務、症例プレゼンテーション、抄読会発表、研究会・学会発表、症例報告論文発表を行います。今年もリウマチ領域の著名な雑誌に掲載されました。

Matsushita S. Rapidly expanding cutaneous *Mycobacterium chelonae* infection in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. *Rheumatology (Oxford)*. 2021 Jul 21.

【当科で研修した医師のメッセージ】



吉田 龍太郎 先生（アレルギー免疫科 内科専攻医）

当院アレルギー免疫科を研修させて頂いております、卒後3年目、後期研修1年目の吉田 龍太郎と申します。初期研修中に総合内科医に出会い、出身地である東北では医師が少なく総合内科医の能力が求められると考え、後期研修では内科知識をさらに深く身に付けたいと思いました。医科研病院では、リウマチ・膠原病領域の専門性の高い疾患に対する最新治療を実臨床で経験することが出来ます。一般的な市中病院ではこの分野の症例はあまり多くはなく、なかには専門診療科がないため最後まで自分で診療することが出来ないこともあるかと思えます。当院では、他院からの紹介など多様な症例が集まり、初期診療から専門性の高い治療までを学ぶことが出来ます。また指導医の先生方は各領域の研究をされており、第一線で活躍されている先生方から直接、最新の知見や情報を学ぶことが出来るのも魅力のひとつです。私のような幅広く内科を学びたいと考えている者にとっては、リウマチ・膠原病を疑った際にどのような鑑別を挙げ、どのような検査が必要かなどを学ぶことが出来る良い環境ですし、また、この分野に進みたいと考えている方にとっても、難治症例の治療などを深く学ぶことが出来る充実した環境だと思えます。

対象疾患・主な治療

関節リウマチ	顕微鏡的多発血管炎	SAPHO症候群
悪性関節リウマチ	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	RS3PE症候群
全身性エリテマトーデス	多発血管炎性肉芽腫症	回帰性リウマチ
抗リン脂質抗体症候群	高安動脈炎	好酸球性筋膜炎
全身性強皮症	側頭動脈炎	骨粗鬆症
多発性筋炎・皮膚筋炎	リウマチ性多発筋痛症	痛風
シェーグレン症候群	血清反応陰性脊椎関節炎	偽痛風
IgG4関連疾患	強直性脊椎炎	自己炎症症候群
混合性結合組織病	乾癬性関節炎	
ベーチェット病	反応性関節炎	
成人スチル病	掌蹠膿疱症性骨関節炎	
結節性多発動脈炎		

上記疾患に対して、最新のエビデンスに基づき、患者様の症状、病態、社会的背景に応じて、患者様に寄り添う治療を実践しています。特に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、乾癬性関節炎などに対しては、免疫抑制療法のリスクを評価した上で、生物学的製剤やJak阻害薬などを使用しています。

膠原病・リウマチ領域に興味のある研修医、専攻医の先生方、是非、一緒に働きましょう。きっと医師人生の中で、有意義な時間になることを確信しています。



科長
志田 大
SHIDA DAI

外科では、主に大腸癌、胃癌など消化管疾患を対象とした手術治療を行っています。積極的に低侵襲手術に取り組んでおり、患者さんのQOLを考慮して、腹腔鏡手術や機能温存手術を行っています。直腸癌に対してはロボット支援下手術も実施しています。最新のERAS(術後回復能促進プログラム)に基づいた周術期管理を行い、チーム医療で確実・安全な手術を目指しています。

専門研修医は、主治医として積極的に臨床研修を行うとともに、上級医の指導の下、論文執筆や学会活動も積極的に行います。手術に関しては、虫垂炎やヘルニア、胆石症などの一般外科手術に加え、大腸癌、胃癌などの専門的な手術まで学ぶことができます。特に腹腔鏡手術に関しては、日本内視鏡外科学会技術認定医が手術の指導を行いますので、精度の高い手術手技を学ぶことができます。内視鏡検査の手技も習得可能です。

専門研修は東大外科専門研修プログラムの連携施設として行います。専門研修後でも更なる専門性を高めたい若手医師も歓迎します。見学等は随時受け付けています。

3つのモットー

1. 経験に基づく「**確実**」そして「**安全**」な手術
・・・患者さんに‘安心’を提供します
2. **チーム医療** (ERAS: 術後回復能促進プログラム)
・・・麻酔科・看護師・薬剤師・栄養士と力を合わせて診療
3. **患者さん目線**
・・・笑顔になって頂けるよう全力を尽くします

対象疾患・主な治療

大腸癌

大腸ポリープ、遺伝性大腸癌 (リンチ症候群、家族性大腸腺腫症)

炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病) 肛門疾患

胃癌

急性腹症 (虫垂炎、大腸憩室炎など) 外科一般 (胆石症、鼠径ヘルニアなど)

E-mail; dshida@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

URL; <http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/gairai/depts-06.html>

東大外科専門研修HP; <http://square.umin.ac.jp/surgery/index.html>

脳腫瘍外科



科長
藤堂 具紀
TODO TOMOKI

脳腫瘍外科では、さまざまな脳腫瘍を対象とした診療を行っています。特に、神経膠腫（グリオーマ）は、手術と標準治療では治癒が困難であることから、科学的根拠と先進的研究に基づき、高いQOL（生活の質）の維持および疾患の完治を目指した先端医療と、「標準＋非標準」治療を実践し、放射線治療や化学療法にさまざまな工夫を凝らしています。

当科の特徴

がん細胞のみで複製することができるウイルスを利用した「ウイルス療法」のトランスレーショナルリサーチを実践しています。ウイルス療法においては、ウイルス感染や複製が細胞の防御機構や自然免疫に左右される一方、ウイルスががん細胞を破壊する過程で全身性の特異的抗腫瘍免疫が惹起されることを利用しますので、我々の研究は免疫とも密接に関わっています。我々は単純ヘルペスウイルスI型（HSV-1）の遺伝子を人為的に変異させて、がん治療に安全に適用できる遺伝子組換えHSV-1を開発しています。特に、三重変異を有する第三世代のがん治療用HSV-1（G47Δ）については、2021年6月に製造販売承認され、世界に先駆けて実用化に成功しました。また、バクテリア人工染色体と組換え酵素系を利用した遺伝子組換えHSV-1作製システムを開発し、この技術を用いてG47Δの基本骨格にさまざまな塩基配列を挿入することで、特殊な機能を付加した遺伝子組換えウイルスを作製しています。2020年からは信州大学皮膚科と連携して悪性黒色腫患者を対象に、ヒトインターロイキン12発現型HSV-1（T-hIL12）の第I/II相試験（医師主導治験）を実施しています。

メールアドレス
Webサイト

mntanaka-nsu@umin.ac.jp
<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/glioma>

対象疾患・主な治療

【対象疾患】

- ◇ **神経膠腫（グリオーマ）**：膠芽腫、退形成性星細胞腫、星細胞腫、退形成性乏突起膠腫、乏突起膠腫、上衣腫、退形成性上衣腫
- ◇ **中枢神経原発悪性リンパ腫**
- ◇ **転移性脳腫瘍**
- ◇ **その他の脳腫瘍**：髄膜腫、神経鞘腫、髄芽腫、胚細胞腫、神経芽腫など

【主な治療】

◇ 標準療法

ナビゲーションガイド下、術中神経生理学的モニタリング下手術

高線量を含む放射線治療

中枢神経系原発悪性リンパ腫等に対する化学療法

◇ ウイルス療法

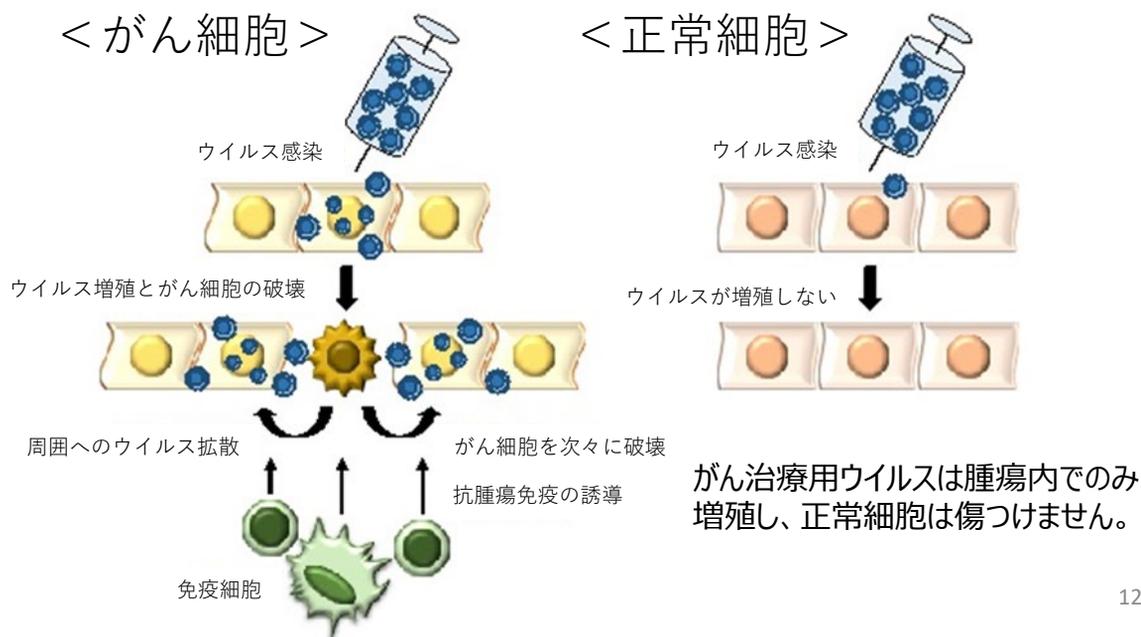
◎ 第三世代がん治療用ウイルスG47Δ（デリタクト注）

（制限増殖型遺伝子組換え単純ヘルペスウイルスI型）

- ・ 膠芽腫対象の医師主導治験により**有効性と安全性を確認**
- ・ 2021年6月**悪性神経膠腫**を対象に製造販売承認
- ・ 他の固形がんとして**前立腺癌、悪性胸膜中皮腫**に臨床試験を行い、現在は**嗅神経芽細胞腫**が進行中

◎ 免疫刺激型第三世代がん治療用ウイルスT-hIL12

- ・ **悪性黒色腫**を対象に医師主導治験が進行中



泌尿器科



科長代理
高橋さゆり
TAKAHASHI
SAYURI

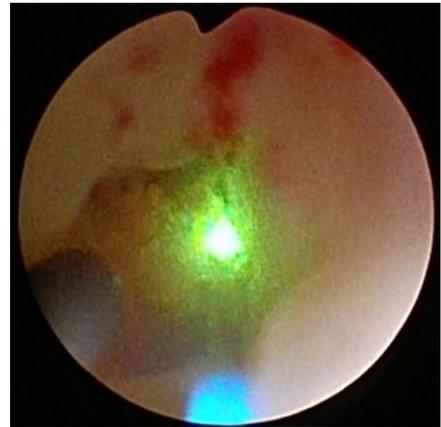
泌尿器科は2020年7月に開設した新しい診療科です。前立腺癌や腎癌などのロボット手術を行うことが主体とはなっておりますが、それ以外にも腎癌・腎盂癌の腹腔鏡手術、膀胱癌・前立腺肥大症に対するTUR-BtやTUR-P、尿路結石に対するレーザーによる碎石術、精巣腫瘍や陰嚢水腫などの小手術や膀胱瘻造設や尿管ステント留置などの緊急手術など一般泌尿器科を網羅しております。少人数の科であるため、泌尿器科レジデントが習得すべき手術は全て術者として担当でき、自立して手術ができるよう指導を行います。

また地方会や総会で演者として発表を行ったり、英文で論文を書くようきめ細やかな指導を行います。

少人数でアットホームな雰囲気の中で臨床を学ぶことができます。



da Vinci手術の手術室風景



尿管結石のレーザー碎石術

当科は東京大学医学部附属病院泌尿器科の研修プログラムの連携施設になっております。研修プログラムに沿って関連病院でも研修を行うこととなります。ご興味のある方はまずご連絡ください。お待ちしております。

E-mail; todaiikaken.uro@gmail.com

URL; <https://www.imsut-uro.jp>



泌尿器科手術チーム

